

002

「防災訓練×エンターテインメント」
災害時のリアルな疑似体験を通し「災害対応力」向上を目指す、次世代型防災コンテンツ

取組主体

株式会社フラップゼロアルファ

従業員数	想定災害	実施地域
9人	全般	全国

・災害発生時の「焦り」「混乱」「不安」をリアルに再現し、疑似体験を通して「災害対応力」を強化する体験型防災訓練プログラムを開発。「訓練に参加しない世代」を中心に、防災への意識を向上させる。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

災害発生時の臨場感あふれる災害現場を再現する体験型の防災訓練

・防災教育推進事業及び「謎解き」を活用した地域活性化事業を手掛ける株式会社フラップゼロアルファは、形骸化している防災訓練の改革を目指し「防災訓練」×「エンターテインメント」を融合させる。

・災害発生時の臨場感あふれる災害現場を再現し、発災時に必要となる防災知識や対応力を全員参加型にて実施する「体感型防災アトラクション®」や、自宅から参加できる「リモート型防災アトラクション®」を展開している。



体験型防災アトラクションの様子

・本事業は、2013年より宮城県にて東日本大震災の地域の復興支援に取り組む際に、現地にて防災訓練の現状と課題を知ることになったことがきっかけで始まった。その課題とは「訓練参加者の高齢化」「訓練内容の形骸化」「若い世代の参加率の低迷」「公助への依存」である。同時に、訓練への参加を願う30～50代の若い世代からは、防災訓練に参加しない理由として「形骸化した訓練から新たに得るものがない」「訓練自体の面白さがない」という声があがった。「このままでは、今後懸念される各地の巨大地震や、近年増加している風水害への一般市民の対応力が低いままその時を迎えてしまう。」そうした危機感から、同社は、これまでに全くない新たな防災コンテンツの開発に着手した。2015年3月、仙台市で開催された「第3回 国連世界防災会議」にて発表し、全国へと展開することとなった。

・小学生が自発的に参加したいと思ってもらえるよう、チラシなどの告知物やPV(告知動画)などを創作している。更に、子ども達から参加を促された保護者が、イベントと一緒に家族で参加できるように設計されている。実際の災害発生時の疑似体験を通し、防災意識の向上や備えのキッカケをつくることを目的とした。



体験型防災アトラクションのチラシ

・「これまでの防災訓練からは想像がつかない訓練の機会」とするため、当日の自由参加ではなく事前予約制としている。会場では没入感を高めるための、地震や風水害などのテーマに沿ったオリジナル映像、臨場感の溢れる音響・照明などテーマパークを彷彿とさせる機材を設営する。また、運営スタッフはテーマパークなどのクルーなどのような専門スタッフを配置する。こうした演出により、楽しみながらも災害時で体験するであろう「焦り」「混乱」「不安」などを再現し、この状況下で自分達がどのような選択、行動をするのかを体験してもらう。複数年や毎年実施される自治体や企業、学校も多く、毎回、新たな映像やテーマ、防災ミッションなどを制作し実施している。

・「これまでの防災訓練からは想像がつかない訓練の機会」とするため、当日の自由参加ではなく事前予約制としている。会場では没入感を高めるための、地震や風水害などのテーマに沿ったオリジナル映像、臨場感の溢れる音響・照明などテーマパークを彷彿とさせる機材を設営する。また、運営スタッフはテーマパークなどのクルーなどのような専門スタッフを配置する。こうした演出により、楽しみながらも災害時で体験するであろう「焦り」「混乱」「不安」などを再現し、この状況下で自分達がどのような選択、行動をするのかを体験してもらう。複数年や毎年実施される自治体や企業、学校も多く、毎回、新たな映像やテーマ、防災ミッションなどを制作し実施している。

・「これまでの防災訓練からは想像がつかない訓練の機会」とするため、当日の自由参加ではなく事前予約制としている。会場では没入感を高めるための、地震や風水害などのテーマに沿ったオリジナル映像、臨場感の溢れる音響・照明などテーマパークを彷彿とさせる機材を設営する。また、運営スタッフはテーマパークなどのクルーなどのような専門スタッフを配置する。こうした演出により、楽しみながらも災害時で体験するであろう「焦り」「混乱」「不安」などを再現し、この状況下で自分達がどのような選択、行動をするのかを体験してもらう。複数年や毎年実施される自治体や企業、学校も多く、毎回、新たな映像やテーマ、防災ミッションなどを制作し実施している。

「訓練は面白くないから参加しない」から生まれた次世代型防災コンテンツ

・「体感型防災アトラクション®」は、東日本大震災の地域の復興支援がきっかけで始まり、様々な試行錯誤の末に生まれた。日本では防災訓練を楽しいものにするとう「不謹慎」といわれてしまうような風潮がある。また、どんなに良い訓練内容でも、興味を持ってくなくては意味がない。そのため、同社がもつ謎解きゲームや研修指導で培ったノウハウと実際の阪神淡路大震災での被災体験を合わせ、次世代型防災訓練コンテンツを開発した。

・同コンテンツの制作は、阪神淡路大震災の被災経験を元に企画されている。また、当日の運営担当者は、阪神淡路大震災を経験している。そのため、実際の現場の重みや生活再建の困難さを、リアルに伝えることができる。また、座学で

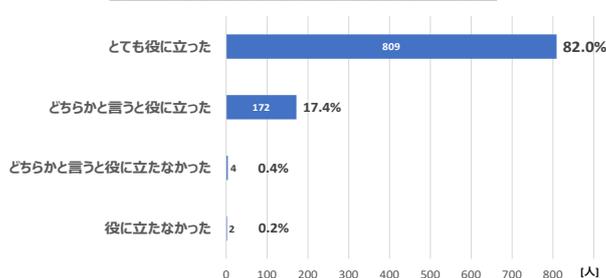
国土強靱化

ある「振り返りレクチャー」では、主催地域の被災状況の解説や、行政の防災情報の案内や検索方法など、毎回各主催地域に即した座学の内容を構築している。このことにより、他人事ではなく、自分事として捉えてもらうことができる。

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- ・平時ではできると思っていたことや、思い込みの防災知識、備えの不足など、間違っていたことや足りないことなどを発見でき、「防災」の見直しを進める機会になっている。
- ・左図の通り、アトラクション参加者に聴取したアンケートでは、参加者の80%以上が防災力の意識向上に役立ったとの回答を得ている。
- ・「自助」「共助」に対する意識の向上には、日頃からの隣近所や地域の関係作りが重要であることを伝えている。その結果、開催地においてのイベントや催しに参加する方々が増加した。また、参加した自治体や参加者から「評判が良い」と声が上がり始め、自治体や企業からの依頼が増えてきた。コロナ前では年間約80公演、24都道府県6万人以上の動員までに展開している。

アトラクション参加による防災意識向上に関するアンケート結果



アトラクション参加者へのアンケート

3 現状の課題・今後の展開等

- ・「防災アトラクション」は、防災訓練や防災への取組の「キッカケ」の一端を担う役割である。参加者への啓発は、一定の効果を上げている。しかし、集合型の訓練であるため、同日に複数のエリアでの開催が困難であることや、開催にあたって予算確保が難しい自治体などが多く存在することが課題である。
- ・今後の発展については、オンラインにて自宅から参加が可能となった「リモート型防災アトラクション」を作成。2020年より展開を開始した。今後は、日本国内の人口減少に伴う地域や離島の合併、リモートワークの拡大が予想される。そのため、離れた場所や自宅からでも参加できる訓練として定着させるよう、展開させていく。
- ・また、防災訓練の時間がなかなか取れない上に災害への対策が急がれる「高齢者施設の運営スタッフ」やインバウンド需要に対応した「ホテル、旅館スタッフ」へのリモート型コンテンツを新たに導入し、有事の際の対応力向上を目指す。

4 周囲の声

- ・焦る状況下ではパニックになって、なかなか落ち着いた行動ができないことが分かりました。(イベント参加者)
- ・3.11を知らない世代である子どもたちにとって、今回のようなイベントを通じて、地震対策を学ぶことがとても意義深いと思いました。家からオンラインで参加できる点もよかったです。コロナ禍が収束してもオンライン開催を続けてほしいです。(イベント参加者)
- ・これまでに参加しなかった若い世代の家族が非常に多く参加すること。さらに、自治体や企業など主催者が発信してきた内容の多くが浸透していなかったり、誤って認識されていることなど、多くの改善点が見つかることで今後の改善点を発見する機会となっている。(イベント実施者)

担当者の声

災害が増加する近年、公助の限界を伝え、自助・共助の強化が急務であると感じています。しかし、どのような重要な情報や知識も、訓練に参加してもらわなければ伝えることができません。時代と共に急変する「価値観」は防災訓練にも求められています。民間企業だからこそ可能である「コンテンツの作りこみ」と、行政や企業、組合、学校との連携にて、より多くの方々に啓発を広げていくことを祈念しています。

問合せ先

株式会社フラップゼロアルファ 法人番号：1200-01-218995
TEL：06-4862-4210 FAX：06-4862-4210 E-Mail：gusan@flapzero.com

動画



サイト URL

